

## これからの予定



### ★子どもをみまもる抱樸（ほうぼく）の心 作家と画家と編集者の思い

日時 2023年10月15日（日）  
14時～16時（13時30分開場）  
場所 ウインクあいち  
鼎談 作家 山本悦子さん  
画家 佐藤真紀子さん  
童心社編集長 橋口英二郎さん  
定員 50名  
参加費 会員1,000円 一般1,500円  
東海子どもの本ネットワーク、  
紙芝居文化の会あいち共催  
めったに聞けないとびっきりの企画！  
定員も少ないのでお早めに！

### ★紙芝居講座 in おおさか

日時 2023年8月12日  
13時～17時  
場所 大阪市中央公会堂  
講師 酒井京子さん  
野坂悦子さん  
名古屋から1時間の大坂。近い！  
「酒井さんのお話をもう一度聞きたい」と  
紙芝居あいちからも参加します！



### ★紙芝居講座 2023

日時 2023年11月11日（土）12日（日）  
場所 東京出版クラブビル（神保町）  
第22回総会と紙芝居講座  
今年は2日間の講座です。  
ゲスト講師として、美術・絵本評論家で作家の  
松本猛さんをお迎えします。  
画家いわさきちひろさんのご子息です。

## コラム 《ま・間・ま》

あ～！富士山！

富士山が世界文化遺産になって10年という報道があった。決まった時の報道になぜ「自然遺産」ではないの？と疑問を持ったことを思い出した。それは「信仰の対象と芸術の源泉」として決定と説明されていた。それが、今回の報道の中で、富士山がゴミの山とあって悲しくなった。東京への往復の際、必ず新幹線の窓から富士山を見る習慣になっている。なぜ、惹かれるのだろう？あの美しい姿は万葉人から、信仰に、歌・文学に、絵画に多くの人々を魅了し続けている。外からは円錐状の形状と頂上に雪の白さを頂く形が美の象徴として描かれる。紙芝居でも画家・藤田勝治が『にじになったきつね』で富士山をバックに描いて季節感を出し、日本人の魂のような感覚を醸し出して、物語と共に富士山の存在を知るいい作品にしている。その本体が、ごみでいっぱいとは。登山者よ、富士山の本体をいつまでも美しく保つ気持ちを持とう。



### 紙芝居文化の会 あいち とは

こんなことやりたい

- ・通信を発行します
- ・紙芝居講座を開催します
- ・情報交換をします



会員になるには

紙芝居文化の会にご入会下さい

詳しくは、紙芝居文化の会：

<http://www.kamishibai-ikaja.com/>

または、下記連絡先まで

紙芝居文化の会あいちの会費は不要です

愛知県内だけでなく近隣の方々もご参加下さい

連絡先

〒470-0126 日進市赤池町村東149

紙芝居文化の会あいち代表 近藤洋子

FAX 052-801-5794

[kamishibai-aichi@yahoo.co.jp](mailto:kamishibai-aichi@yahoo.co.jp)



# 紙芝居文化の会 あいち

第24号  
2023.7



紙芝居文化の会とは

- ・紙芝居を愛する人
- ・紙芝居に興味のある人
- ・紙芝居を演じたい人
- ・さまざまな思いの人、海外の人とも  
出会い、交流する場です。

(2001年創立 事務局東京都三鷹市)

## ★「赤ちゃん絵本と紙芝居 一創り手の立場からー」

日進市立図書館開館 15 周年記念講演会

6月 11 日（日）

講師 酒井京子さん（紙芝居文化の会代表・童心社会長）

視聴覚ホールいっぱいの参加者が一斉に頷く。それは『いないないばあ』がゼロ歳からの文学を目指した絵本なのだと納得した時でした。



あかちゃんが初めて出会う文学に創り手の妥協はありません。絵の配置（左にいる動物が、ページをめくると右にいる）、読み進めるとともに変化する言葉、ねずみの存在（5回登場する）、この絵本のために特別に漉いた紙、こだわりのフォントなど。



『いないないばあ』は、創り手が本気で作った本物の絵本なのです。だからこそ、あかちゃんに選ばれ、長く親しまれ続けているのでしょう。あらためて手に取り、丁寧に読みなおしてみようと思いました。

後半は紙芝居の話でした。酒井さんが『あひるのとうさま』を演じた時です。憤慨したあひるが舞台を飛び出し、こちらに向かって歩いてきたのです。まさに紙芝居の醍醐味を感じることができました。



酒井さんの優しい語り口から、創り手の熱い想いが伝わってくる講座でした。（O）

## ★紙芝居はうすにお迎えして

酒井京子さん

6月12日（月）10時～

日進図書館講座の翌日、紙芝居はうすに酒井さんが来てくださいました。私は『本の力』を読んで改めてお話しをお聞ききしたく、わくわくしました。

まず、紙芝居『おかあさんのはなし』1950年出版。いわさきちひろの初の彩色作品です。おかあさんのドレスや走る姿が、いわさきちひろらしい絵。おかあさんを小さく、湖を大きく描く工夫（第4場面）死神の手だけの絵（第9場面）、背景の一部に墓地がある事（第6場面）により恐ろしさを表現していると、特に絵について解説してくださいました。



14ひきシリーズは作家いわむらかずおさん、デザイナー、編集者酒井さんと3人で何度も何度も相談しながら作りあげられたそうです。



14ひきシリーズファンの私はかわいいねずみたち、季節ごとの植物や背景、細やかな色使いで匂いやせせらぎの音も聞こえてきます。

3人の方の作り上げられた『本の力』でしょうか。はうすの皆と食事もしていただけて、とても楽しい時間でした。本当にありがとうございました。（k）



## ★結成半年 「かみしばい同好会」

昨年末、名古屋市東図書館で紙芝居講座を受講した仲間と「かみしばい同好会」を立ち上げました。毎月紙芝居を持ち寄り、楽しんでいます。



おはなし会の練習にもなりますが、むしろ対象年齢やジャンル問わず、各自、今、演りたいものを自由に選んで演じています。5月に実演した『おかあさんのはなし』は特に感動深く、こどもたちにもぜひ生命の尊さを伝えたいという声がありました。6月の例会でも11作演じました。興味深く作品を味わって感想を話し合います。昆虫や自然、ベトナム、あかちゃん紙芝居、宮沢賢治作品についてなど、話に花が咲きました。来月もどんな紙芝居に会えるか、ワクワクしています。（S）



## ★紙芝居お話会 プログラム

『でんぐりがえる』

名東図書館 6月24日（土）

大人8人 子ども13人

『カバのタロ』



『くさむらのおうさまカマキリ』

『ひこいちどんのかさやさん』

『ぼくのおうちは？』

『チンパンジーのおんがくかい』



帰りに2人の男児がぼく北海道に行くよと話に来てくれ、紙芝居を借りてくれました。

紙芝居に興味を持ってくれた人が多く、皆が借りて帰りました。（Y）